

● 草の根パートナー型

平成20年度第2回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	ケニア
2. 事業名	ケリチヨー県母乳育児に焦点を当てた母子保健サービス向上プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	ケニアの完全母乳率は低く公衆衛生省より「母乳育児推進委員会」の設置を求めるなど2008年半ばより母乳育児に焦点を当てた保健政策が推進され始めている。対象地域では、(1) 乳児死亡率や新生児死亡率が全国的にみても高く、(2) 多くの産婦が十分な産後ケアを受けずに帰宅し、約半数の妊婦は熟練助産師の介入もなく自宅分娩をしており、(3) 低体重児率も全国的に高い状況である。このような現状の中、産後の合併症予防の点や子どもの感染症予防と成長発達のためにも、産後健診受診促進や母乳育児支援などの産後ケアに焦点を当てた介入の必要性は高いと考える。
4. 事業の目的	母乳育児を継続できる母親が増え、乳幼児の栄養が改善される。
5. 対象地域	ケリチヨー県
6. 受益者層	ケリチヨー県にある5箇所のヘルスセンター（HC）スタッフ、合計20名 対象地域における産婦・新生児約5,000名、周辺地域の住民約61,000名
7. 活動及び期待される成果	【成果1】 HCスタッフの母乳育児に関する知識と技術が向上する。 【成果2】 コミュニティ住民の母乳育児に関する意識と知識が向上する。 【成果3】 県保健局の母乳育児に関わる母子保健サービスへのモニタリング体制が向上する。
8. 実施期間	2009年7月～2012年1月（2年6ヶ月）
9. 事業費	50,000千円（予定）
10. 事業の実施体制	プロジェクトマネージャー（日本人）1名の下、現地調整員およびコミュニティ担当者（両者ともケニア人）、さらにカウンターパートであるケリチヨー県保健局運営管理チームから選出された1名をプロジェクト現地マネージャーとし、協働していく。また日本人短期専門家として現地調査・評価（1名）、研修計画／母子保健（1名）を派遣し研修や評価モニタリングの指導およびサポートを実施する。さらにプロジェクトマネージャー補佐とし、日本人スタッフを1名配置し、現地調整員およびコミュニティ担当者をサポートしていく。 HANDS東京本部では、本業務担当の国内業務調整員（1名）が中心となり事務局長代行や技術アドバイザーの助言を得ながら、現地での活動を全面的にサポートする。
11. 対象国・地域での協力実績	2005年3月から2008年3月までの3年間「ケニア国西部地域保健医療プロジェクト」（PROTECO）を実施。対象地域は、リフトバレー州ケリチヨー県（HC7ヶ所）、ニャンザ州キシイ県（HC7ヶ所）で、1次保健医療施設であるHCの管理運営能力の強化ならびにHCとコミュニティにおける妊産婦ケアサービスの向上と啓発活動を通して、妊産婦ケアが改善され、最終的には地域住民、特に妊産婦の健康状態改善を目指し活動を展開した。このプロジェクトにおいて育成された組織は、女性グループ「Safe Motherhood Group」及び「HC運営委員会」があり、コミュニティにおける保健医療サービスに重要な役割を担っている。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	特定非営利活動法人 Health and Development Service（HANDS）
2. 活動内容	保健医療分野の包括的な国際技術協力を通じて平和で豊かな地球市民社会の実現に貢献することを目的に、平成12年1月に設立。平成13年3月に特定非営利活動法人取得。幅広い分野の専門的知識を有し、質の高い技術協力の提供を行い、明確な戦略と高いマネジメント能力を持ち、明瞭な説明責任を果たすと共に、市民の手による責任ある国際協力の実施体制を充実させるために人々と共に事業活動を展開している。